

中井町環境基本計画事業点検・評価シート

(一次評価)	令和6年6月28日
(二次評価)	令和6年7月26日

令和5年度分



項 目	太陽光発電システム設置補助件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	設置費の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システムを普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	10	基/年		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績	
太陽光発電設備 設置数	9 基	5 基	5 基	
蓄電池 設置数	5 基	6 基	5 基	
HEMS 設置数	1 基	1 基	4 基	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
平成21年度より補助制度を開始し、令和5年度末までに累計193件の補助を実施した。 平成29年度に策定した「中井町地球温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

太陽光発電の固定価格での買取期間が10年間と規定されており、固定買取期間の満了を理由に、蓄電池購入の申請を行う人も見て取れる。令和4年度より蓄電池及びHEMSへの補助件数の上限を5件に増やし、創エネ、畜エネ、省エネの一体とした普及を図っている。
現在、資材費や人件費等の上昇により、導入費用の高額化が加速する恐れがあるため、設置(申請)件数への影響が懸念される。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である
		B. 改善・見直しを行うべき事業である <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である
		C. 休止・廃止すべき事業である
		D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・一般家屋への設置数が増えるよう、補助額の見直しが必要ではないか。 ・災害時のライフライン停止等を考えると防災面からも必要性は高い。	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	B-2	B-2

項 目	エコドライブ啓発活動	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	1	回		
	事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
	エコドライブ啓発活動	2 回	0 回	0 回
	公用車にエコドライブ推進の啓発テープ貼付	21 台	21 台	21 台

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
エコドライブ推進について、公用車を利用し周知を行った。また、美・緑なかいフェスティバルの環境ブースにポスターの掲出、チラシの配布などを行い啓発活動を実施した。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

運転手の個人的意識に依存してしまう。
継続して、環境展などのイベントで啓発を図る必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	D	D	D

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・単にエコドライブを啓発するのではなく、ガソリン代が高騰しているので「ガソリン代を節約する運転術」等、町民の関心を引くような周知方法を考えた方がよい。また、年1回の目標であっても複数回実施すべきことである。</p> <p>・EV車の普及はしばらく時間がかかると思う。「エコドライブ」というフレーズだけでも忘れぬように喚起したい。</p> <p>・運転手の意識改革が必要なので、基本計画に記載されているような交通安全週間活動に併せてチラシ等の配布を行う。</p> <p>・すでに十分周知され、「標語」感が強く、インパクトに欠ける気もするので、他の活動と併せてもよい。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	B-3	B-3	B-2

項目	環境家計簿参加者数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	10	人		
事業内容		令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
環境家計簿参加者数 実数		9 人	6 人	5 人
太陽光発電システム等設置費補助金 受給者		9 人	5 人	5 人
住宅用蓄電池設置費補助金 受給者		5 人	6 人	5 人
HEMS設置費補助金 受給者		1 人	1 人	4 人

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
太陽光発電システム設置費補助金、住宅用蓄電池設置補助金及びHEMS設置補助金の申請要件として、システム導入から1年間の環境家計簿の提出を義務付けており、実績値は補助金受給者数となっている。受給者1人で複数の補助金を受けている者もいるため、令和5年度の補助件数は15件(9名)となっている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

エネルギー価格が高騰するなか、環境面だけでなく経済面での利点も広報し、太陽光発電システム等設置者以外へも、広報紙やホームページ等を活用しての普及啓発を図り、省エネ等の環境について考えるきっかけの一助としたい。これまでに蓄積されたデータについては、分析・検証し、他の事業に活用することも検討していく必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	B	C

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・太陽光発電システム等の補助金申請者だけを対象としているようだが、町広報等を活用し、広く町民に知らせなければ事業概要に合わない。(一部の町民、一部の家庭になってしまう)</p> <p>・環境家計簿の継続的な提出を求め、成果、データ分析を公表していく。</p> <p>・参加人数からみても、十分な効果があるとは思わない。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	B-2	B-2	B-2

項目	温室効果ガス排出量の削減量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	26	%		
事業内容			令和5年度 実績	令和4年度 実績
公共施設及び公用車の使用によるCO2排出量			1,338,652 kg/CO2/年	1,263,223 kg/CO2/年
CO2削減率(前年度比)			5.97%	17.44%
CO2削減率(平成25年度比)			3.53%	-2.30%
			↑令和4年度の実績値	↑令和3年度の実績値
低公害車両保有台数(公用車)			17台	17台
				↑令和2年度の実績値
				16台

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
公共施設等から排出されるCO2の約9割が電気の使用によるもの。温暖化などの異常気象が進行する中で使用量は概ね横ばいに抑えられており、他の品目においては大きく削減することが出来ている。しかし、電気の二酸化炭素排出量を算出するにあたっては、環境省が示す係数を用いる必要があり、この係数は年度や供給業者によって変動が生じてしまうことから、電気ひいては公共施設等の二酸化炭素排出量に目に見える効果を得られていないため「B:これまでの実績を維持」とした。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

公共施設のCO2排出量は約9割が電気項目で占めているため、それに係る二酸化炭素排出係数により実績値が増減してしまう。
公用車の低公害車両の導入を検討する。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	A	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・何をどうすればよいのか示したい。(現状のままです)</p> <p>・特効薬がない。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	B-2	B-2

項 目	食品ロス対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	食品ロス削減のための啓発		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
境・中村地区の食ロス調査結果	11.2%	—	14.1%
宮上・北窪地区の食ロス調査結果	—	13.1%	—
学校給食残渣の無償譲渡	1社	1社	1社
食品ロス啓発活動	3校	3校	3校

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
今年度も引き続き、大井町・松田町の3町で食ロス実態調査を実施した。学校給食残渣を飼料として養鶏場に無償譲渡することで、ごみの減量化を図っている。町内小中学校において、給食活動食指導の中で食品ロス啓発に取り組んでいる。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

食ロス実態調査を令和3年度から実施しており、継続的に実施することにより、食品ロスの実態を把握していくことが重要である。また、調査を実施している、ごみの分別が不十分であることも見受けられることから、分別の徹底についても継続的に周知を行う。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・ごみの分別意識を高める広報活動が不足しているように感じる。</p> <p>・今後の地球環境を考えると(人口増加・温暖化)、食料の重要性は高まる一方である。小学生への意識を高める活動を拡充させてほしい。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	B-2	B-2	B-2

項目	事業系ごみ対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発			
	事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
	事業系ごみ排出量(可燃ごみ)	691 t/年	707 t/年	710 t/年
	町内小中学校におけるごみの減量化・再資源化	3校	3校	3校
	給食施設から排出される廃食用油の資源化量	855 kg/年	979 kg/年	429 kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
		コメント	
		東部清掃組合及び収集業者より排出量の報告を依頼し集計している。 町内小中学校では、ペットボトルキャップ回収、インクカードリッジ回収、書道紙リサイクルプロジェクト、給食の牛乳パック回収など、ごみの減量化・分別化やリサイクルの推進に取り組み、給食施設では、排出される廃食用油の資源化に取り組んでいる。	

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

引き続き、事業系廃棄物の排出量の把握に努め、継続してごみの減量化の啓発を行う。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	A	B	B	D

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	ごみ減量の意識は忘れがちになる。根気よく訴求あるのみ。	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	B-2	D

項 目	不法投棄件数、量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	不法投棄ゼロ		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
不法投棄 件数	19 件	20 件	22 件
不法投棄 回収量	2,440 kg/年	2,870 kg/年	2,180 kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
シルバー人材センターに委託をし、月に6回不法投棄パトロールや神奈川県と合同で年2回不法投棄パトロールを実施した。また、職員によるパトロールや不法投棄箇所の現地確認・回収を行った。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

不法投棄パトロールの継続実施、不法投棄をされない環境づくりが必要である。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・不法投棄は犯罪。一部の業者が特定の人物の鼓動だと思う。町民の監視を利用するなど、意識づけを強化することを望む。</p> <p>・不法投棄の連鎖を防ぐため速やかな回収が大切。</p> <p>・効果的な対策は中々出ないのが現実であるが、少量でも大変な犯罪である。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	A	B-2

項 目	生態系調査実施	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を町の資源として、環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
副読本(なかいの生きものかんさつブック) 販売量	1冊	0冊	4冊
生態系調査	未実施	未実施	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
本年度は副読本の販売はあったが、生態系調査について未実施のため「D」評価としている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

啓発を図るために副読本の存在を周知していく必要がある。
令和6年度は、前回調査から7年が経過するため、実施方法等の検討が必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	D	C	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・篠窪(大井町)あたりまでヤマビルが出ている情報がある。農作業にも苦労している。 ・自然環境を売りにしているのであれば、実態をモニタリングすべき。次年度(R7年度)は予算措置を。 ・「生態系調査実施」は良いと思うが、令和3~5年度が未実施となっている。実施するなら毎年実施する。実施しないなら項目を削除すべき。 ・生態系の保存の仕組みとは何か。調査は専門的になり町のする事業なのか疑問。 ・思い切った見直しが必要。 ・大事な調査ではあるが、単体として事業計画に必要かどうかは疑問に思うところもある。 	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	B-1	A	B-2

項 目	森林等保全事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	環境上下水道課
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹ファンクラブ等の団体活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
森林環境譲与税 譲与金(積立額)	1,990,000 円	1,990,000 円	1,204,000 円
かながわトラストみどり財団による竹林整備	中井中央公園内	中井中央公園内	中井中央公園内
水源の森林づくり事業	古怒田地区 11.1 ha	第4期計画 測量調査	鴨沢地区 30.99 ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
森林環境譲与税は、過年度緊急性の高いナラ枯れの除伐に一部活用した。現在基金に積み立てている森林環境譲与税は、今後の公共施設等の整備や改修で木質化を図るうえで活用予定。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

町内に森林組合や林業事業者がないことから、森林保全は民間の任意団体の活動に頼っている状況で、民有林の維持保全は困難である。また、相続により町外在住の所有者が増加し、更に管理が行き届かない可能性がある。森林環境譲与税の年間譲与額が少額であることから数年は、基金への積立を行う必要がある。水源の森林づくり事業については、令和8年度までは県補助金を受け実施するが、令和9年度以降は県の方針も定まっておらず、事業実施については未定である。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	A	A

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・継続実施していかないと里山は悪化するのみ。そのスピードは早い。国・県の水源環境税は活用すべき。事業をやめる理由はない。</p> <p>・中井町にとって「自然」「田・畑」「野山」は大事な観光資源になるのでより拡充してほしい。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	B-2	B-2

項目	荒廃農地等活用事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	農地中間管理機構を活用した新規就農者や担い手による荒廃農地等の削減
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
農作物収穫体験事業 参加人数(米)	48 人	40 人	26 人
農作物収穫体験事業 参加人数(ブルーベリー)	88 人	54 人	34 人
農作物収穫体験事業 参加人数(みかん)	83 人	46 人	35 人
遊休農地・荒廃農地	140 ha	133 ha	129 ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
事業に利用された農地は荒廃化を防いでいるが、ごく限られた面積となっている。収穫体験には毎回多くの応募があり、直接的・間接的に農業へのPR効果は高いが、荒廃農地の根本的な解決には繋がっていない。 現時点で把握している遊休農地(耕作放棄地)は約140haで、今後も増加が見込まれる。所有者には適切な農地の管理をお願いしたい。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

耕作放棄地の増加速度は増しており、耕作者の確保が課題である。JAや農業アカデミーと連携して新規就農者等の受け入れを促進しているが、それ以上に担い手不足や高齢化による影響が大きく荒廃農地の解消は難しい状況である。
令和7年度に将来の農地利用の姿を明確化する地域計画(旧人・農地プラン)の策定をする。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	C	C	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・体験事業が、農家(特に新規就農者)の収入増につなげることはできないか。</p> <p>・収穫体験には多くの応募があるが、荒廃農地の根本的な解決にならないのであれば、農地の貸し手と借り手のマッチング事業等を取り入れてはどうか。(貸農園等での活用も)</p> <p>・難しい事業であるが、取り組みないと悪化するだけ。農地利用プラン策定に期待する。</p> <p>・農地を他の用途に使う足かせ等は知識がないが、他の活用方法を考えるしかない気がする。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	B-2	B-2	B-2	B-2

項 目	河川清掃実施範囲	担当課名	まち整備課
		関係課名	環境上下水道課
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
中村川・藤沢川 清掃活動(回数)	2回/年	2回/年	2回/年
中村川・藤沢川 清掃活動(面積)	11,720 m ²	11,720 m ²	12,920 m ²
中村川・藤沢川 清掃活動(活動団体数)	5 団体	5 団体	5 団体

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
河川管理者は必要最低限の草刈りとする方針。当事業が河川的美観を保つ一役を担っている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

団体構成員の減少、高齢化により継続が難しくなっている。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・きれいな水が流れる河川は美しい。活動団体の継続は必須である。</p> <p>・自治会員の減少や高齢化により清掃範囲を縮小して実施している。</p> <p>・限られた労力、予算では難しいが、「河川」は多くの視線を集めるため、中井町の印象を大きく左右すると思う。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	B-2	C

項 目	生活排水処理率	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別保間により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外は垂れ流しのみなし浄化槽等を無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	100%(2026年度)		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
転換補助	4 件	3 件	3 件
下水道接続率	80.4%	79.6%	79.1%
浄化槽区域の合併処理浄化槽	37.4%	36.8%	36.1%

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
少しづつではあるが、下水道接続、合併処理浄化槽への転換は進んでいる。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

下水道接続への転換率向上を図るための広報啓発活動や戸別訪問等の情報提供の継続実施。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	A	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・種々の理由があると思うが、丁寧に生活環境改善を説明するしかないであろう。</p> <p>・地道な継続が大切な事業だと思う。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	A	B-1

項 目	工場排水調査件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業で下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年3事業所以上(県との連携分を含む)			
	事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
	排水検査実施数	3 事業所	3 事業所	3 事業所

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
		コ メ ン ト	
		対象となる11事業所のうち、毎年3事業所で検査を実施している。 事業所が原因となる水質事故は、近年発生していない。(平成26・28年度に各1件発生)	

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

対象事業所(11事業所)に対し、毎年3事業所で実施しており、1事業所当たり約4年に1度の検査となっている。
事業所の自主検査など、対策強化の検討も継続的に必要である。
河川への影響を考えた場合、下水道への接続も視野に入れる必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・おいしい水が、町の強み。体に影響のある物質を扱う事業所の管理検査は重要事項。</p> <p>・約4年に1度の検査では間隔が開きすぎる。町が行う検査の間に1回は事業所に義務付ける。</p> <p>・とても大切で必要な調査だと思う。企業側の意識を高い状態で保ってもらうことが必要。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	町内一斉清掃参加人数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	まち整備課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	現状を維持する(2017年度 4,426人)			
	事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
	町内一斉清掃 参加者	3,777人	2,036人	1,875人(秋中止)
	町内一斉清掃 ごみ回収量(可燃)	11,730 kg	5,860 kg	6,180 kg
	町内一斉清掃 ごみ回収量(不燃)	420 kg	200 kg	160 kg
	クリーンウォーキング 参加者	43名	44名	中止
	クリーンウォーキング ごみ回収量	20 kg	30 kg	中止

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
町内一斉清掃に合わせて道路の草刈りや河川の整備を行い、草刈作業等の実施有無を明確にするため申出書の提出を依頼している。 なかいクリーンタウン運動の一事業として、クリーンウォーキングを実施した。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

自治会構成員の減少や高齢化が進んでいる。また、参加者からは9月に開催している一斉清掃について、残暑が厳しいことから、実施時期の見直しを求められているが、他の行事との兼ね合いなどがあるため実施時期の変更は厳しい状況である。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	B	B	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	<p>・生活道路の草刈りは専門に任せ、プラごみ拾いが主のウォークの充実が望ましい。</p> <p>・生活環境の保全は地域住民ですという意識を持ってもらうため継続が必要。</p> <p>・自分の住んでいる地域の「清掃」には絶対参加、若しくは協力が必須であると思う。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	A	B-2

項 目	環境展等開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環 境 像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事 業 名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年2回以上			
	事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
環境展		6月に開催	6月に開催	未実施
美・緑なかいフェスティバルでの啓発		開催	開催	未実施
小学校への出前講座		1校	未実施	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
6月の環境月間に合わせ、農村環境改善センター及び井ノ口公民館にて環境展を実施した。また、美・緑なかいフェスティバルでは、環境ブースを設置し、ポスター掲出やパンフレットの配布を行い啓発活動を行った。井ノ口小学校4年生に出前講座を行った。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

啓発活動を継続的に実施し、町民等と一体となった環境保全及び地域温暖化防止等、環境意識の向上に取り組む必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	C	D	D	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・国や県が発する事業には同調し啓発することは大事なこと。</p> <p>・環境に対する意識の高さは今後さらに重要になってくる。小中学校での出前講座の回数を増やす必要性を感じる。</p>	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	B-2	A	B-2

項目	自然観察会開催数	担当課名	生涯学習課
		関係課名	
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	自然観察会を実施する
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく 特に子供たちに対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさやすばらしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	年5回以上(関係団体等との連携強化)		
事業内容	令和5年度 実績	令和4年度 実績	令和3年度 実績
生物多様性ハイク(参加者人数)	16名	中止	中止
巖島湿生公園自然体験活動(参加者人数)	中止	中止	中止

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コメント			
新型コロナも5類に移行され、イベントの制限は行っていないが、近年の参加者の減少により令和5年度は生物多様性ハイク1回のみ開催となった。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

子連本部役員の人員不足等により、令和5年度をもって組織が解散となったことから、本事業を含め子連が担ってきた活動の継続について今後町で検討していく必要がある。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の一次評価	D	D	D	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	参加者の減少や子連の解散等が課題となっているようなので、事業の見直しを検討してはいかかが。	

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
過去の二次評価	A	A	A	A